

OKF-ニュース

公益財団法人 大阪腎臓バンク

慢性腎臓病 (chronic kidney disease:CKD) 患者の健康寿命延伸に向けて

大阪腎臓バンク常任理事
稲葉 雅章



腎機能は加齢と共に低下するため、高齢者ではCKD罹患率が上昇します。CKD患者では要支援・要介護の状態になる原因疾患とされる高血圧症、糖尿病、睡眠障害、低栄養、認知症の合併率が高いことが示されています。最近、健康寿命に大きく影響することで注目されるサルコペニア/フレイルもCKD患者で合併しやすく、CKD-MBD・骨粗鬆症合併による転倒・骨折リスクも高いことから、一般高齢者より健康寿命を享受する期間が短く、要支援・要介護で生存する時間が長いと想定されています。

最近、筋肉量の減少や筋力の低下に基づく身体能力の低下がサルコペニアという概念でまとめられました。このサルコペニアは高齢者の要支援・要介護に陥る主たる原因としてますます重要視されるようになってきています。このサルコペニアを発症する患者がCKD患者に多いことが知られており、その発生機序として複数のものが想定されています。CKDそのものによるサルコペニア発生に加え、腎保護目的の治療としてのCKD患者に対する運動制限や食事の蛋白質摂取制限などもサルコペニアを惹起させます。また、高齢CKD患者では、サルコペニアの主たる原因疾患の一つである糖尿病の合併に加えて、糖尿病治療での食事制限療法もサルコペニアを引き起します。最近発表された高齢糖尿病患者の治療指針では食事制限は血糖管理改善の観点よりもサルコペニアを引き起こす悪い面が強調され、高齢やせ型で低栄養の患者に対しては、むしろサルコペニア・低栄養防止に向けて、筋肉量を保持するための運動療法に加えて、十分な蛋白質・カロリー摂取が推奨されており、従来の肥満2型糖尿病に対する適正な食事量の制限とは全く異なった考え方となっています。私たちが発表した血液透析患者のコホート研究で、栄養（血清アルブミン、GNRI）、筋肉量・筋肉の質、さらには体脂肪量と生命予後との関連を検討した研究結果では、いずれの検討でもこれら栄養指標の良い患者では良好な生命予後との関連が認められました。さらには、血液透析導入後に食事摂取量

が増加し体脂肪量が増えた患者群では、変化なし・減少を示した患者群に対して有意な生命予後の改善がみられました。したがって、血液透析患者の栄養改善は生命予後改善・健康寿命延伸を目指すうえで重要な治療ターゲットと考えされました。サルコペニアは低栄養指標であるとともに身体能力と密接に関連します。サルコペニア患者では歩行能力などの一般的な身体機能の低下と共に、バランス感覚の悪化が認められ、転倒リスクが高まります。さらに大殿筋萎縮の影響も考えられ尻餅をついた際の大腿骨頸部骨折リスクも高まります。大腿骨頸部骨折後の生命予後や身体能力の低下は、心血管イベント後の生命予後悪化と同じように、当該年齢の一般人と比べて非常に悪いことがわかつており、骨折イベント防止の意義は血液透析患者で大きいと考えられます。したがって血液透析患者で痩せやサルコペニアを呈する患者に対しては、積極的な食事摂取の励行が望まれ、サルコペニア合併の血液透析患者に対して1.2g/kg体重の蛋白摂取が正当化される一方で、蛋白質摂取量増加による血清リン上昇が問題となります。しかし、大規模コホートでの検討では、蛋白質摂取増加による生命予後改善効果は、血清リン上昇と比較して効果が大きいことが示されています。また、蛋白質による酸負荷がアシドーシスを引き起こし筋肉量・機能低下につながるため、重曹投与によるアシドーシス対策が重要となります。糖尿病合併例、不眠症、認知症なども低栄養・サルコペニア発症率が高く、低血糖リスクによる転倒リスクの低いインクレチン関連薬、不眠症に対しては転倒や譫妄リスクの低いオレキシン受容体拮抗薬やメラトニン受容体作動薬への投薬変更が一般臨床の場で可能となっており、高齢透析患者の健康寿命延伸に向けて考え方や治療面でパラダイムシフトの起こっている時代とつくづく実感させられます。

[索引]

1. Inaba M, and Mori K. Extension of healthy life span of dialysis patients in the era of a 100-year life. *Nutrients* 2021;13(7):2623
2. Inaba M, Okuno S, Ohno Y. Importance of Considering Malnutrition and Sarcopenia in Order to Improve the QOL of Elderly Hemodialysis Patients in Japan in the Era of 100-Year Life. *Nutrients*. 2021;13(7):2377.

献腎移植体験記

献腎を待つ心の苦しみ

腎移植8年／池成 京子

大学卒業後、社会人となって3年目の健康診断で腎臓の異常を告げられました。しばらく通院を続けたものの、自覚症状も無く忙しさにかまけて放っていたのが今となれば大後悔！足に紫斑が出て病院へ行くと即入院。腎生検の結果、「いずれ透析に」と宣告されました。でも当時は「何それ？」。

主治医の勧めもあり、退職し（今なら絶対しなかったけど）食事制限も頑張りましたが、6年後に透析導入に至りました。シャント造設（透析を受けるために必要な血管手術）は事前に済ませていたものの、ギリギリまで頑張って、ついにギブアップ。尿毒症が顕著になって、吐き気とフラフラ状態で1回目の透析を受けました。けれど、終わった後の爽快感にビックリ。透析の有難さを本当に実感しました。後から聞いたら、その時のクレアチニンは20を超えていたそうです（12以上は危険域）。

それから2ヶ月後、クリニックに通う維持透析に移りました。献腎移植までの20年間、そのクリニックでお世話になりました。当初は不均衡症候群に悩まされ、翌朝には下がるもの透析後に38度を超える熱が毎回続いた時期もありました。しかし、院内の患者会に入会し、患者同士の支え合いの中で、透析生活も順調に送れるようになりました。スポーツジムに通い、非透析日にはアルバイトをし、これと言った合併症も無く、透析が自分の生活に完全に溶け込みました。水分とカリウム制限以外はそんなに苦痛に感じる事もなく過ごしていました。

透析導入後、移植希望の登録はずっと続けていました。透析20年のある夜中に「該当した」との電話がありました。「余りに突然。順調だった透析生活」…そんな事を考え迷っていた私の背中を押してくれたのは、同じクリニックの透析友達でした。「うまくいかなくても、また透析に戻るだけ」という言葉。色々考え不安になっていた私でしたが、迷いが吹っ切れ、移植手術を決意しました。

頂く腎臓は、脳死ではなく心停止後の提供でした。入院しても手術がいつになるのか分からず、ただドナーの心停止を待っている私。「人の死ぬのを待っているの？こんな気持ちになるなら断れば良かった」と、本当に頭と心がおかしくなりそうでした。でも、その時に背中を押してくれたのも友達。「きっとしんどくなっていると思ったわ～」と言ひながら病室まで来てくれた時は嬉しくて、今思えばあの時が今まで生きてきた中で一番精神的に辛くて苦しい思いをした時間でした。

移植後8年目になりますが、毎年手術を受けた日を迎える度、日々元気に過ごせる事への感謝を新たにしています。でも、その日はドナーのご命日であり、ご遺族には悲しい日です。その事実を、献体移植を受けた私たちは絶対に忘れてはいけません。

移植後は、あんなに飲みたくてたまらなかった水分なのに、いつでも飲めるからか、そんなに欲しくもなくなりました。また病室で「退院したら、透析時に制限されていたフルーツの食べ放題に行く」と言っていたのに、まだ一度も行っていません。人間とはなんとも勝手な生き物だと再認識です。

昨年は新型コロナウィルスによって生活が一変しました。基礎疾患のある透析患者や移植者が感染すると重症化すると言われています。不安で家に籠もりがちですが、手洗い、マスクを忘れず、人混みを避けながら…と思うのは甘いでしょうか？

そんなある日、透析後にコンサートを見に行った帰り、突然血圧低下のだるさと共にシャント肢に激痛を覚えました。すぐにクリニックへ連絡し、処置してもらいました。シャント血管が血栓で詰まっていたのですが、そうなると痛いと話には聞いていたけど、本当に激痛でした。

令和2年度事業報告及び決算

令和2年度の事業活動については、令和2年2月26日理事会で承認された事業計画・収支予算に基づき執行を予定していたが、コロナウィルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発出の影響は甚大で、一部事業活動の中止、縮小を余儀なくされた。

（事業報告の概要）

1. 腎不全実態調査助成事業

血液透析医療や腎移植医療の実態把握のため、大阪透析研究会及び腎移植施設連絡会が行った調査・解析研究に対し助成した。

2. 若手研究者に対する研究助成

令和2年度の研究助成事業も、大学・病院医師・コメディカルといった様々な所属や移植・透析・CKDといった様々な医療分野からの申請を一律に審査していた方法を改め、様々な分野の研究テーマに幅広くチャンスを与えるため、施設・資格、医療分野ごとに枠を設け、その各々の枠の中で審査を行うこととした。

その結果、17件の申請に対して基礎分野は5件、臨床分野は5件、コメディカルは1件、疫学分野は3件に対し助成した。

3. 優秀論文に対する褒賞

コロナウィルス感染症の拡大に伴い、事業が実施出来なかつた。

4. 教育研修助成事業

コロナウィルス感染症の拡大に伴い、事業が実施出来なかつた。

5. 学会等共催事業

腎・尿路疾患の予防と治療に関する学術研究の推進に寄与するため、学会等共催審査委員会で承認された学会及び研究会の共催事業を実施した。

(1) 学会

- ①第33回日本老年泌尿器科学会 R2.9.11～12 於：奈良県コンベンションセンター、奈良JW
主宰 植村 天受（近畿大学）
- ②第24回日本透析アクセス医学学会学術集会・総会 R2.11.27～28 於：大阪国際会議場
主宰 長沼 俊秀（大阪市立大学）
- ③第94回大阪透析研究会 R3.3.7 Web開催
主宰 坂口 美佳（近畿大学）

(2) 研究会

- ①日本組織適合性学会近畿地方会 代表世話人 芦田隆司（近畿大学病院）
- ②大阪腹膜透析研究会 林晃正（大阪急性期・総合医療C）
- ③大阪腎移植病理組織研究会 代表世話人 岸川英史（県立西宮病院）
- ④移植後肝炎研究会 代表幹事 市丸直嗣（住友病院）
- ⑤慢性腎臓病（CKD）アウトカム研究会 代表幹事 中西健（兵庫医科大学）
- ⑥大阪骨粗鬆症検診を考える会 会長 稲葉雅章（大野記念病院）

6. 普及啓発事業

(1) キャンペーン活動及び啓発資料作成・配布

コロナウィルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言発出により、街頭でのキャンペーン事業は実施出来なかつた。

(2) 患者団体活動助成

患者団体の活動に対し助成を行った。

- ①NPO法人大阪腎臓病患者協議会（大腎協）
- ②NPO法人日本移植者協議会（日移植）
- ③大阪移植の会
- ④大阪腎友会

(3) 勉強会の開催及び機関誌発行等

大阪府院内移植コーディネーター研修会を共催し、大阪府移植医療セミナーの開催を支援した。

また、機関誌（OKFニュース）を発行し賛助会員等に配布するとともに、ホームページを更新した。

7. 組織適合検査事業

(1) 検査体制の整備に努めるとともに、検査事業の向上・改善を図るために、日本臓器移植NW、検査機関、移植施設と意見・情報交換を行った。

(2) 献腎移植希望登録を円滑に行うため、組織適合検査（HLA検査、抗体クロスマッチ検査）を当財団の費用負担（一部、府補助金及び患者負担あり）により、大阪急性期・総合医療Cで実施した。

- ① HLA検査 79件（うち、患者負担微取分72件）
- ② 抗体クロスマッチ検査 15件

8. 大阪府臓器移植コーディネーター事業

(1) 日常活動として、三次救命救急センター、公的病院、民間病院の13医療施設を延べ40回訪問し、移植推進のための情報交換や普及啓発資料等配布した。臓器提供可能医療機関に対し移植医療の普及啓発を図るために、院内移植コーディネーター設置支援や臓器の提供に関する研修会の開催など提供体制の強化に努めた。また、大阪府、日本臓器移植NWとの連絡調整業務を行った。

(2) ドナー発生時は日本臓器移植NWの指示により腎臓提供を承諾する通報から腎移植に至るまで、腎提供施設・移植施設との連絡調整、組織型の適合した移植希望登録者への連絡、検体・腎臓の搬送、ドナー遺族への対応を行った。

(3) 令和2年度における、大阪府内でのドナー情報は17件

あり、提供に結びついたのは2件であった。
 <令和2年度 献腎移植実績>

提供：府内2件4腎、府外2件2腎
 移植：府内 5腎、府外 1腎 計6腎

年月日	提供病院	移植病院	備考
2年7月1日	国立循環器病研究センター	京都府立医科大学附属病院	脳死
		近畿大学病院	
7月27日	関西医科大学総合医療センター	大阪大学医学部附属病院	脳死
		近畿大学病院	
11月28日	(近畿地方)	大阪大学医学部附属病院	脳死
3年3月7日	(東海地方)	大阪大学医学部附属病院	脳死

(決算の概要)

恒常的な赤字解消のため、事業費の削減、資産運用の効率化に取り組み収支均衡を目指したが想定外のコロナウイルス感染症拡大の影響で、収入面では予算比981万円の減少、支出面では予算比1,368万円の減少となり、当期経常増減額は想定外の214万円余りの黒字となった。

今年度予算については、既に本年2月の書面理事会で承認されているが、来期以降は今年度事業の執行状況も注視しながら事業費の増額等も視野に入れて検討していく。

貸借対照表

令和3年3月31日現在 (単位:円)

科目	当年度	増減
I 資産の部		
1. 流動資産	29,503,829	2,570,268
2. 固定資産	238,591,877	11,145,774
(1) 基本財産	60,000,000	0
(2) 特定資産	42,515,569	739,174
(3) その他の固定資産	136,076,308	10,406,600
資産合計	268,095,706	13,716,042
II 負債の部		
1. 流動負債	1,866,818	182,792
2. 固定負債	13,351,000	610,000
負債合計	15,217,818	792,792
III 正味財産の部		
1. 指定正味財産	71,046,131	372,275
2. 一般正味財産	181,831,757	12,550,975
正味財産合計	252,877,888	12,923,250
負債及び正味財産合計	268,095,706	13,716,042

正味財産増減計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで (単位:円)

科目	当年度	増減
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
基本財産運用益	1,071,812	▲ 768,359
運用財産運用益	4,423,200	1,986,600
受取会賛助会費	16,800,000	▲ 480,000
受取寄付金(学会等共催)	7,078,225	▲ 6,456,373
受取寄付金(一般)	2,100,000	▲ 1,898,519
受取学会等共催事務費	439,500	▲ 86,000
受取補助金	906,000	0
受取委託料	5,720,000	0
受取受益者負担金	3,240,000	85,000
受取利息	2,212	▲ 1,781
経常収益計	41,780,949	▲ 7,619,432
(2) 経常費用		
事業費		
腎不全実態調査助成費	400,000	200,000
研究助成費	2,500,000	100,000
褒賞費	0	▲ 400,000
教育研修助成費	0	▲ 121,720
学会等共催費	7,078,225	▲ 6,456,373
学会等共催審査委員会謝金	0	▲ 22,274
普及費	1,534,301	▲ 532,076
組織適合検査費	4,510,000	▲ 660,200
移植コードィネーター費	6,568,661	76,651
管理費	16,802,286	▲ 208,565
建物減価償却費	243,101	0
経常費用計	39,636,574	▲ 8,024,557
評価損益等調整前当期経常増減額	2,144,375	405,125
投資有価証券評価損益	10,406,600	8,778,306
当期経常増減額	12,550,975	405,125
2. 経常外増減の部		
経常外収益計	0	
経常外費用計	0	
当期経常外増減額	0	0
当期一般正味財産増減額	12,550,975	405,125
一般正味財産期首残高	169,280,782	
一般正味財産期末残高	181,831,757	
II 指定正味財産増減の部		
受取学会等共催寄付金	7,890,000	▲ 10,000
一般正味財産への振替額	▲ 7,517,725	6,542,373
当期指定正味財産増減額	372,275	6,532,373
指定正味財産期首残高	70,673,856	▲ 6,160,098
指定正味財産期末残高	71,046,131	372,275
III 正味財産期末残高	252,877,888	12,923,250

理事等役員の改選

令和3年5月28日に開催された評議員会で任期満了に伴う理事、監事の改選が行われました。

今回の改選により、大阪市立大学の内田教授と大阪府健康医療部の対馬医療対策課長が理事に、トーマス監査法人の額額氏が監事に、大阪市立大学の繪本教授と関西医科大学教授の木下教授が評議員にそれぞれ新たに就任されました。

当財団顧問としてご活躍いただいた室町様、理事としてご活躍いただいた大阪府健康部の浅田様、監事としてご活躍いただいた仲里様、評議員としてご活躍いただいた矢嶋様にはそれぞれご退任されることになりました。長年にわたるご支援に感謝申し上げますとともに、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

最後に、当財団評議員の西本幸造様におかれましては、6月22日にご逝去なされました。これまでのご支援、ご協力に感謝するとともにご冥福をお祈りいたします。

役員名簿

(令和3年7月現在)

役員名	氏名	現職
顧問	岸本 武利	大阪市立大学 名誉教授
〃	茂松 茂人	大阪府医師会 会長
会長	秋山 隆弘	医療法人恵泉会堺平成病院 名誉院長
副会長	西澤 良記	公立大学法人大阪 理事長
理事長	高原 史郎	(社医)純幸会関西メディカル病院 腎移植科部長
副理事長	仲谷 達也	(社医)生長会府中病院 脾・血液浄化研究センター長
〃	山川 智之	医療法人仁真会 理事長
常任理事	東 治人	(学)大阪医科大学 教授
〃	猪阪 善隆	大阪大学大学院 教授
〃	稻葉 雅章	(社医)寿楽会大野記念病院 名誉院長
〃	松田 公志	関西医科大学附属病院 病院長
〃	藪本 雅巳	医療法人錦秀会 理事長
理事	有馬 秀二	近畿大学 教授
〃	植村 天受	近畿大学 教授
〃	内田 潤次	大阪市立大学大学院 教授
〃	大道 道大	社会医療法人大道会 理事長
〃	神原 紀子	医療法人新明会 理事長
〃	久保 俊裕	株式会社クボタ 特任顧問
〃	近藤 雅彦	医療法人近藤クリニック 理事長
〃	柴原 伸久	医療法人北辰会い澤総合病院 理事長
〃	武本 佳昭	大阪市立大学医学部附属病院 教授
〃	對馬 英雄	大阪府健康医療部保健医療室地域保健課長
〃	西岡 伯	和泉市立総合医療センター 特任病院長
〃	西出 孝啓	医療法人尚生会貝塚西出クリニック 理事長
〃	野々村祝夫	大阪大学大学院 教授
〃	松坂 英孝	大阪ガス株式会社 顧問
〃	守山 敏樹	大阪大学キャンパスライフ健康支援センター 教授
〃	山口 誓司	大阪はびきの医療センター 院長
監事	大野 良興	社会医療法人寿楽会 理事長
〃	額額 和雅	公認会計士 監査法人トーマツ

(顧問2名 理事26名 監事2名)

評議員名簿

(令和3年7月現在)

氏名	所属
○ 平尾 佳彦	社会福祉法人大阪暁明館病院 名誉院長
今村 亮一	大阪大学大学院医学系研究科 准教授
繪本 正憲	大阪市立大学大学院医学研究科 教授
岡田 茂樹	医療法人岡田会岡田クリニック 理事長
木下 秀文	関西医科大学 教授
京 昌弘	医療法人医誠会大阪梅田医誠会透析クリニック 院長
小角 幸人	医療法人高橋クリニック 院長
高間 俊郎	医療法人紀陽会長居良風クリニック 院長
辻本 吉広	社会医療法人愛仁会高槻病院 院長補佐
椿原 美治	滋慶医疗科学大学院大学 教授
能勢 和宏	近畿大学医学部 准教授
長谷川廣文	医療法人社団日翔会生野愛和透析クリニック 院長
武曾 恵理	京都華頂大学 現代家政学部・食物栄養学科 教授
吉田 克法	社会福祉法人恩賜財團済生会中和病院 脾・透析センター長
淀井 省三	医療法人淀井病院 理事長
渡邊 太郎	社会医療法人純幸会関西メディカル病院 理事長

○評議員会会長

(16名)

令和3年度研究助成事業

令和3年度研究助成事業については、20件の申請に対して、基礎分野6件、臨床分野3件、コメディカル3件、疫学1件、合計13件に助成することが決まりました。

令和3年度研究助成者並びに研究課題

No.	氏名・所属	研究課題
1	朝比奈悠太 大阪大学	血液透析患者の歩行機能に対する whole body vibration の効果 - ランダム化比較試験
2	美馬 晶 大阪医科大学	脳腎関連 IRSI/ インスリンシグナルによる糖尿病性腎臓病とアルツハイマー病の治療
3	新 健太郎 大阪市立大学 医学部附属病院	オンライン HDF におけるアルブミン漏出の関連因子の検討
4	中尾俊一郎 大阪大学医学部 附属病院	日本外傷データバンクを用いた小児鈍的腎外傷の受傷機転と予後にに関する研究：小児発達段階の違いによる分析
5	上原 博史 大阪医科大学	腎移植における肥満の弊害と減量の意義の研究
6	松田 潤 大阪大学医学 部附属病院	慢性腎臓病治療を目指した糸球体性尿蛋白の発症機構解明
7	角谷 佳則 大阪市立大学	2型糖尿病の糖尿病性腎臓病におけるグリコカリックス障害マーカーとアルブミン尿および動脈硬化指標との関連に対する検討
8	角井 弘嗣 井上病院	睡眠時無呼吸症候群の評価・治療介入から透析患者の疲労感の軽減を図る
9	待場 優里 大阪市立大学	血液透析患者における新規栄養評価指標 NRI-JH (nutritional risk index for Japanese hemodialysis patients) と感染症・心血管疾患・総死亡との関連～DREAM コホート研究～
10	塩谷 拓嗣 近畿大学	IgA 腎症に関与する原因抗原の同定
11	岸村 厚志 滋慶医療科学 大学	新型コロナウイルス感染拡大状況下における慢性血液透析患者の日常的活動の実態調査
12	安田 聖一 大阪大学	生体内におけるリン恒常性維持機構の解明
13	加藤 大悟 大阪大学	遺伝子改変ネオアンチゲン特異的 T 細胞による腎細胞癌個別化免疫療法の開発

学会等共催事業

令和3年9月以降に開催予定の共催学会は下表の通りとなっています。

なお、コロナウイルス感染症拡大の影響により日程、会場等が変更されることがありますので、詳しくは主催者に確認していただきますようお願いします。

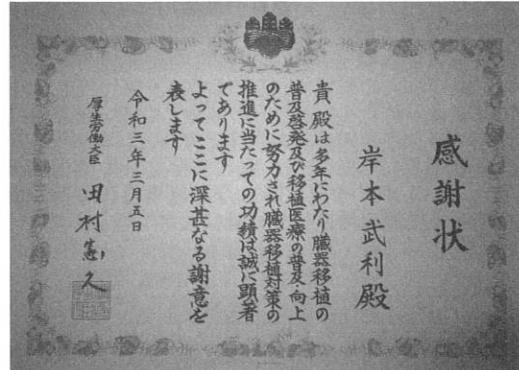
学会名	開催日時・場所	主宰者(所属)
第95回大阪透析研究会	R3.9.12 Web 開催	山本 貞久 (医療法人健榮会三康病院)
第42回日本小児腎不全学会・学術総会	R3.12.9 ~ 10 Web 開催	野島 道生 (兵庫医科大学 泌尿器科・腎移植センター)
第40回アフェレシス学会 関西地方会	R4.2.22 Web 開催	長沼 俊秀 (大阪市立大学大学院)
第96回大阪透析研究会	R4.3.6 大阪国際会議場	武本 佳昭 (大阪市立大学医学部 附属病院)
第29回日本次世代人工腎臓研究会	R4.8	武本 佳昭 (大阪市立大学医学部 附属病院)
第24回在宅血液透析学会 第17回長時間透析研究会 合同研究会	R4.11.12 ~ 13 大阪市中央公会堂	山川 智之 (医療法人) 仁真会白鷺病院
TSS Asian Regional Meeting 2022	R4.11.25 ~ 26 京都産業会館	今村 亮一 大阪大学大学院

※腎・尿路疾患の予防と治療に関する学会等との共催事業を実施し、寄付募金や経費支払の事務を行っています。令和4年度以降に検討又は計画されている学会等を対象に共催申請のご案内をしています。
申請書類・手続等は事務局までお問い合わせください。

お知らせ

平成3年3月5日に当財団顧問の岸本武利氏が「臓器移植対策推進功労者」として厚生労働大臣から感謝状の贈呈を受けました。

岸本氏は、大阪市立大学医学部を卒業後同医学部泌尿器病態学教室教授として長年ご活躍なされ、平成15年5月からは財団副理事長に就任以来、平成25年5月には理事長、27年からは会長を歴任し、令和元年5月からは財団顧問としてご活躍いただいております。



事務局だより

1. 税額控除適用法人の証明(継続更新)

当法人への寄付金(賛助会費を含む)については、税法上、各種の優遇措置があります。そのうち、個人からの寄付金に係る所得税に關し、この度、大阪府知事から税額控除適用法人の証明(継続更新)を受けました。有効期間は令和3年8月16日から令和8年8月15日までです。所得税に関する優遇措置には所得控除方式もありますが、一般的には今回認められた税額控除方式の方が減税効果は高くなります。

他の優遇措置として、個人からの場合は大阪市に在住の方は大阪市民税、大阪府民の方は個人府民税、相続税があり、寄付者が法人の場合は一般寄付金の損金算入限度額とは別に別枠の損金算入限度額が設けられています。

2. 令和3年度教育研修助成事業の申請案内

大阪府に院内移植コーディネーター設置届出を行っている医療機関を対象に、臓器提供に関する教育研修の参加経費について助成を行っています。

対象となる教育研修等の詳細については、事務局までお問合せ下さい。

3. 令和4年上半年期の理事会等日程

日 時	会 議 名	備 考
1月26日(水) 18:00	常任委員・ 常任理事会	2月理事会の議題整理
2月16日(水) 18:00	理事会	令和4年度事業計画(案)・ 収支予算(案)
5月11日(水) 17:30	常任委員・ 常任理事会	5月理事会の議題整理
5月11日(水) 18:00	理事会	令和3年度事業報告(案)・ 決算(案)
5月27日(金) 18:00	定期評議員会	令和3年度事業報告・決算承認

令和3年9月17日
編集・発行

公益財団法人 大阪腎臓バンク
発行人 高原 史郎

事務局 大阪市北区鶴野町4-11-709

TEL (06)6377-3000

FAX (06)6377-3022

URL:<http://www.okf.ecnet.jp>